令和８年度　地方分権改革の旗手会議（対面）の概要

【日　　時】令和８年８月21日（金）
【場　　所】中央合同庁舎４号館
【参加人数】14名





○第一部　全体会議（内閣府からの説明）

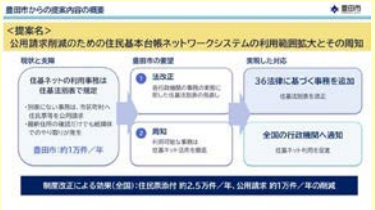
これまでの地方分権改革の経緯や提案募集方式の意義について当室より説明を行いました。



【橋本室長　あいさつ】

（地方公共団体からの事例紹介）

他の地方公共団体の模範となる提案を行っている地方分権改革推進アワード受賞団体から、提案の背景や内容について、受賞対象となった事例をご紹介いただきました。（豊田市）



【豊田市の説明資料（一部）】

○第二部　特別講演　地方自治に関する話題提供（総務省からの説明）

第34 次地方制度調査会における現時点の審議状況を総務省の担当者からご説明いただきました。



【総務省の説明資料（一部）】

○第三部　旗手交流会（60分間）グループ意見交換会を実施

主な発言





- 豊田市の事例を見て、法を変えてまでできることがあると希望を持った。
- 「地方分権」というタイトルでは「難しそう・仕事が増える」と受け取られてしまうことがあるため、タイトルの言い方を変えるだけでも自治体職員はイメージしやすくなるのではないか。
- 分権提案は粗いものを内閣府が磨き、省庁と調整し、専門家を交えて交渉してくれるよい制度だと感じている。
- 負担感がないと気づきにくいが、よく見ればやらなくてよい事務は多く残っている。
- （分権提案の周知を）庁内ポータルに常時バナーとして掲出し、全職員の目につくようにしている。

参加者の声

- 対面開催だからこそ積極的に質問があったように思い、質問者様の自治体の状況も含めて参考になりました
- （第２部の）地方制度調査会の検討状況についても、実務をされている方から直接お話しをお伺いできるまたとない機会となった。
- 内閣府の調査員の方ともお話しできたことは大変有意義でした。繋がりができてよかったです
- 内閣府地方分権改革室の職員の皆さんの職務内容や取り組み方を知ることができて、大変貴重な機会でした